RICOH

本機をお使いのお客様へ

本機は AirPrint 機能に対応しています。
AirPrint 機能の概要や使い方については、リコーホームページ
（http://www.ricoh.co.jp/software/utility/smartdevice/airprint/）を確認してください。

■ AirPrint の印刷機能について

- AirPrint で印刷するには SSL/TLS 用の機器証明書が必要です。SSL/TLS 用の機器証明書が未導入のときは、自動的に SSL/TLS 用の機器証明書（自己署名証明書）が導入されます。
- 工場出荷時は SSL/TLS 用の機器証明書（自己署名証明書）が導入済みとなります。
- SSL/TLS 用の機器証明書が導入済みの状態では以下のユーティリティーと通信が出来なくなることがあります。

  -Ridoc GlobalScan

  -3rd ベンダー製品

  そのときは下記の 3 つのいずれかの方法で対応する必要があります。
  1．認証局から発行された証明書を機器とユーティリティー側にそれぞれインストールする。
  2．証明書（自己署名証明書）がすでに導入されている場合にユーティリティー側にその機器証明書を「信頼できる証明書」としてインストールする。
  3．AirPrint 機能を無効に設定した後に SSL/TLS 用の機器証明書を削除する。
- ［SSL/TLS 通信許可設定］の初期値が［暗号文優先］から［暗号文 / 平文］になります。［暗号文 / 平文］のときは、http でアクセスすると https へのリダイレクトがされなくなるため、暗号通信を利用するには https を指定する必要があります。例えば、Web Image Monitor にアクセスする時、ブラウザーの URL 入力欄へ https から入力する必要があります。
- ［SSL/TLS 通信許可設定］を［暗号文 / 平文］としたときは、SSL/TLS 用の証明書を入れたとしてもリコーの提供する機器管理ソフトとは平文で通信が行われることがあります。暗号通信を利用したいときは［暗号文優先］か［暗号文のみ］に設定値を戻す必要があります。
- AirPrint で印刷するときは、ユーザ認証機能を使用しないよう構成するか、プリンタージョブ認証を［簡易］にしてください。詳しくは、本体に付属の使用説明書『セキュリティーガイド』「ユーザー認証を設定する」を参照してください。
- AirPrint で印刷するときは、複数のジョブを同時に受け付けることはできません。前のジョブが終了してから次の印刷を行ってください。
- 表紙を付けて印刷したジョブを途中でキャンセルすると、本文が印刷されることがあります。
- AirPrint は、iOS や Mac と同一ネットワークにあるプリンターで使用できます。iOS デバイスや Macintosh が接続されている有線または無線のネットワークに、AirPrint が使えるプリンターを接続してください。

使用できないときは、以下の機能が有効になっているか確認してください。（工場出荷時の設定：有効）

- AirPrint
- IPP と Bonjour

ログイン方法は『セキュリティーガイド』を参照してください。

1. Web Image Monitor にネットワーク管理者としてログインします。
2. ［機器の管理］＞［設定］をクリックします。
3. ［ネットワーク］の［AirPrint］をクリックします。
4. ［AirPrint］が［有効］になっていることを確認します。
   ※［有効］になっていないときは、［有効］を押します。
5. ［OK］ボタンをクリックします。
6. ［ネットワーク］の［IPv4］をクリックします。
7. ［IPP］が［有効］になっていることを確認します。
   ※［有効］になっていないときは、［有効］を押します。
8. ［OK］ボタンをクリックし、終了します。
9. ［ネットワーク］の［Bonjour］をクリックします。
10. ［Bonjour］の［IPv4］・［IPv6］のいずれかが［有効］になっていることを確認します。
    ※［有効］になっていないときは、［有効］を押します。
11. ［OK］ボタンをクリックし、終了します。

IPP-SSL 環境設定

AirPrint で印刷をするときは、以下の項目を確認し、設定を行ってください。

❖ SSL 通信が可能な状態になっている。
（機器証明書が入っている。）

1. Web Image Monitor にネットワーク管理者としてログインします。
2. ［機器の管理］＞［設定］をクリックします。
3. ［セキュリティー］の［機器証明書］をクリックします。
   ［証明書 1］の状態を確認します。
   ・「証明書状態」が「導入済み」であることを確認します。
   ・「証明書有効期限」で証明書の有効期限が切れていないことを確認します。
   ※エラーメッセージが表示されたときは、本体に付属の使用説明書『こまったときには』「証明書に問題があるため操作できないとき」を参照してください。

❖ SSL で使用するプロトコルのバージョンが、IPv4 または IPv6 で有効になっている。
TLS1.2 が有効になっている。

1. Web Image Monitor にネットワーク管理者としてログインします。
2. [機器の管理] > [設定] をクリックします。
3. [セキュリティー] の [SSL/TLS] をクリックします。
4. 以下の項目を確認し、適する設定をしてください。
   ・「SSL/TLS」で使用するインターネットプロトコルのバージョンが [有効] になっている。
   ・[SSL/TLS バージョン] の [TLS1.2] が [有効] になっている。
5. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

■ AirPrint のファクス機能について

- 次のときは AirPrint のファクス機能は使用できません。本体側の設定を確認してください。
  - ユーザー認証またはユーザーコード認証が設定されているとき
  - 課金装置でファクスの利用を制限しているが、課金装置が未装着のとき
  - [宛先利用制限（ファクス）] が [する] に設定されているとき
  - ファクスユニットが未装着のとき
  - カントリーコードを韓国に設定し、本体の発信元名称が未登録のとき
- 本体側でファクスを利用中は AirPrint のファクス機能は実行できません。本体のファクスが終了したあとに再度実行してください。
- 発信元名称は、[ファクス初期設定] の [パラメーター設定] のスイッチ 23 で指定した名称を印字します。
- AirPrint のファクス機能で送信した文書は、送信文書や本体から出力するレポートには PC FAX として記録されます。
- AirPrint のファクス機能で送信した文書の内容は、本体では確認できません。
- 本体のハードディスクがいっぱいのときは AirPrint のファクス機能は実行できません。ハードディスクから文書を削除し容量を確保してください。
- OS X 10.8 では、表紙の設定をしても表紙は送信されません。
- 宛先にファクスで使用できない文字が入力されているときは、使用できない文字を無視して送信します。
- 外線と内線が混在している環境では、[ファクス初期設定] の [パラメーター設定] のスイッチ 37 を変更すると、内線 / 外線のどちらを使用するか設定できます。
  0：外線（デフォルト）
  1：内線

■ AirPrint のスキャナー機能について

- 個人認証またはユーザーコード認証でユーザーを制限しているとき、AirPrint のスキャナー機能は使用できません。
- [スキャナー初期設定] の [基本設定] タブの [DSM 以外の宛先表の利用] に [利用不可] が設定されていても、AirPrint のスキャナー機能は使用できます。
- AirPrint で文書を読み取るときは、下記の設定が適用されます。本体の [スキャナー初期設定] の [送信設定] タブの設定は適用されません。
  - [圧縮設定（白黒２値）]：圧縮する
  - [圧縮方式（白黒２値）]：MMR
  - [圧縮設定（グレースケール／フルカラー）]：圧縮する

AirPrint 機能が使用できないときは、サービス実施店に連絡してください。



AirPrint、AirPrint ロゴは Apple Inc. の商標です。

© 2016 Ricoh Co., Ltd.
JA (JP) 2016 年 6 月 D241-7082